

護衛艦「いずも」を調理専門学生が研修



話をされる伊東海将

自衛隊神奈川地方協力本部横須賀地域事務所（所長 田尾雅弘 三等海佐）は、9月19日（火）海上自衛隊横須賀地方総監部（横須賀市西逸見町）において実施された護衛艦「いずも」の研修に30スル調理製菓専門学校（学生及び教職員35名）を引率した。

当日は、少し冷たくなった海風が秋の訪れを感じさせる中、まず横須賀地方総監部において、総監の伊藤海将からお話をいただき、その後、護衛艦「いずも」を見学した。

護衛艦「いずも」では、ラッタルと呼ばれる階段を上り、戦艦大和より15メートル短いという上甲板を歩いて海上自衛隊最大の護衛艦を肌で感じるとともに、調理場や食材倉庫を見学し、現役調理員との懇談を行った。

調理の仕事を希望している学生の一人は、「実際に昼食を調理中の調理場を見学して本当においしいそうでした」と話し、同行した横須賀地域事務所の広報官は、「今回、調理に特化した研修を計画していただき、参加した学生の貴重な経験になった」と話していた。

食事は、艦艇に乗る海上自衛官にとって楽しみの一つであるとともに、日々の厳しい訓練に耐える身体を作る重要な要素である。

横須賀地域事務所は、この研修を契機に、学生が自衛隊に入隊し、高い調理技術を駆使しておいしい食事を作ってくれることを期待している。



調理場

